

2019.11.28(木)
第21回例会
(通算 3574回)

2019-2020年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「CONNECT！ロータリーをよく知って より大きい輪をつくらう！」

第83代会長	天方 智順	例会日	毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
副会長	後藤 公貴	例会場	釧路センチュリーキャッスルホテル
幹事	松井 聖治	事務局	釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
編集責任者	クラブ会報雑誌委員会	☎	0154-24-0860
		☎	0154-24-0411

2019-2020 年度
国際ロータリーテーマ



2019-2020 年度 RI 会長
マーク・ダニエル・マロニー
第 2500 地区ガバナー
吉田 潤司 (釧路 RC)

月間テーマ	経済と地域社会の発展月間
本日のプログラム	情報集会報告会 (担当: クラブ研修委員会)
次週例会	年次総会 (担当: 理事会)

- ロータリーソング: 「それでこそロータリー」
- ソングリーダー: 村上 祐二君
- 会員数 100 名
- ビジター なし
- ゲスト なし
- ニコニコ献金

滝越 康雄君・・・25 日地区大会実行委員会なおらいに事情が分からず、ノコノコと出席。対して働かず悩みもしないで酒だけ飲みに行きました。会費も受け取らず、何か無銭飲食した感じ。今後はよく周りの空気を読んで行動します。飲食代の代わりにニコニコに入れます。

A グループ一同・・・先日の A グループの情報集会でなぜか余ったお金収めさせていただきます、

今年度累計 270,000 円

会長の時間 天方 智順会長



皆さま、こんにちは。思いのほか多くのメンバーの方が昼の例会に来ていただいて嬉しく思います。昼は6テーブルがマックスだったと思いますが、7テーブルまで達する昼の例会はあまり記憶がございません。本当にご出席ありがとうございます。

今日は多くの方が情報収集会の発表者で控えておりますので短くしたいと思います。

来週は、いよいよ年次総会であります。その後、台北中央ロータリークラブへの訪問団もごございます。寒くなってきましたが、気を引き締めてまいりたいと思います。

木下地区幹事がしきりにホノルルのお話をされています。皆さん、心ある方はぜひともお話を聞いてあげてください。私も行くように努力したいと思います。

本日もどうぞよろしくお願いたします。

■ 本日のプログラム ■ 情報集会報告会

クラブ研修委員会 木下 正明委員長

皆さん、こんにちは。あまり時間がないので手短かにお願いします。

11月12日から19日にかけて、8つのグループに分かれて、「釧路ロータリークラブの目指す方向は」という訳の分からない題名で申し訳ございませんでした。

ポール・ハリス・フェロー、100%。ありがとうございました。近年、80周年があったり、ガバナーを輩出したり、地区大会があったりで具体的に絞った話題が多かったので、何でもいから皆さんが和気あいあいと話してほしいと、この話題にしております。そういう意図を汲んでいただいて、発表いただければと思います。

では、Aグループから3分くらいでお願いいたします。

Aグループ 熊谷 任明君

Aグループのサブリーダーを拝命した熊谷です。11月18日、八千代本店において情報委員会の脇委員にお立会いただき、甲賀リーダーの下、他グループか



ら日程のご都合で参加された萩原さんのほか、登坂さん、本間さん、五十嵐さん、荒井さん、五明さん、田中さん、西村さん、私の計11名で上期の情報集会を開催いたしました。

集会で出た意見を紹介します。ご案内のように上期の情報集会は「釧路ロータリークラブの目指す方向は」という大きなテーマですが、冒頭、脇委員より「昨年度の会員意識調査で会員の9割がロータリー活動を満足している中で、3割の会員が会員増強を勧められないという回答があった。どう考えるか」と、議論の口火を切っていただきました。

いろいろ意見が出る中で、「新入会員にとって会員の顔や、ロータリーの仕組みがよく分かるようなシステムを入れたらどうか」という意見がありました。過去のロータリーの仕組みで現在も参考になるものがないか、という視点でいくつか議論が出ました。

先輩会員によれば、「昔は、前回の会合の出席率を例会の冒頭で報告し、会員の出席状況をボードに掲示する形で、より厳しく出席を促す仕組みがあった。このようにすると新入会員が他の会員の顔を覚えやすくなるのでは」という意見がありました。また、「昔の例会では、講師のスピーチのほかに、数分程度の時間で出席者ご自身の趣味や主張を卓話の形で気軽に述べる機会があり、これも会員の名前を覚える良いきっかけになった」という意見もありました。

最後に情報集会の開催形式についても出ましたので紹介します。今回も、各グループの人員構成を見ますと、それぞれレストラン・飲食店を営んでいる会員が1名配置されていて、その方のお店で各グループが情報集会を開催する形式になっているようです。そうしますと、レストラン・飲食店の会員の方はいつもご自身のお店で情報集会に参加することになって、その方々にとって変化もありませんし、そのお店の経営者の方が同席しなければならない特別な事情があるわけでもありません。次回以降はグループメンバーの方以外の会員が営んでいるお店で開催するやり方もあるのではないかと。こういった意見も出ましたので紹介いたします。

以上、Aグループの報告でした。ありがとうございました。

Bグループ 菅原 顕史君



Bグループのサブリーダー、菅原です。よろしくお願ひします。Bグループは鱗さんにて、令和元年11月14日に出席者10名で開催しました。私自身、恥ず

かしい限りですけれども、平成19年に入会させていただきまして初めての出席で、私がサブリーダーで大丈夫なのかなと思ひました。皆さんの温かいお言葉や意見を拝聴させていただいて、私自身、大変有意義な場となりました。サブリーダーを指名してくださり、大変感謝申し上げます。

この情報集会で意見を集約することは非常に難しく、ほとんどこの場で話すことができないような内容ばかりでしたけれども、内容を精査して発表させていただきたいと思ひます。

主な議題は「ロータリーの目的」、「ロータリーの疑問点」、「地区大会」などについて話し合いました。まず、地区大会は「釧路クラブの団結力が高まった」、「一枚岩になった」、「ロータリーのことが理解できた1年だった」、「1,000名もの人が集まる国際色豊かな大会に感動した」など総じて大成功だったという声が多数でしたけれども、「もう少し大会までの議論を深め、各会員の意見交換の場が欲しかった」、「日頃、出ていない会員の掘り起こしを凶る意味で、各会員にお手伝ひのお願いの連絡など積極的にした方がよかった」という意見もありました。

次にロータリーの目的、疑問点に移りました。ロータリーは何のためにあるのか、奉仕活動・ボランティア活動をするという団体ではなく自分の生業、仕事、それ自体を奉仕につなげていく。会社の大小にかかわらずみんなで地域を盛り上げていくのがロータリーである。そういった話が出る中で、青少年奉仕事業に対しての話となりました。「現在の取り組みでいいのか」という意見が出され、「現在のアイスホッケーや野球だけでよいのか。別のスポーツへの支援も大事ではないか」という意見がありました。「5年なら5年、3年なら3年など、期限を設けて支援し、それが醸成されたら市や各団体に移行していき、釧路クラブとしては次のスポーツを支援し、盛り上げていく形が良いのではないか」ということで出席者の意見が一致しました。どうぞ執行部の皆さん、ご検討いただければと思ひます。

最後にロータリーの目指す方向性について話し合いが行われました。これも様々な意見が出ましたが、「最近グローバル化、国際化、ばかりが叫ばれているが、

地域単位のクラブはもっと地域に根差した、密着した団体を目指すべき」という意見でした。

最後に私の思いを少し述べさせていただくと、ロータリーの目的は4つのテストにある「みんなのためになるかどうか」という言葉に私は尽きると思います。私たちが自分たちの生業を通して、もちろん自分のため、ひいてはそれが他人のためになっていくのではないかと思います。

仏教の言葉で「自利利他円満（じりりたえんまん）」という言葉があります。意味は「自分の幸せ・喜びが他人の幸せ・喜びにもつながり、他人の幸せ・喜びが自分の幸せ・喜びになる」です。何か最後に説教的な締めとなりましたが、利他他者の喜びを自らの喜びとする生き方を願いとしてロータリーの輪・ロータリーの歩みを進めてまいりたいと思います。

以上でBグループの報告とさせていただきます。ありがとうございます。

Cグループ 芦名 健一君



Cグループのサブリーダーを仰せつかった芦名です。Cグループは11月18日の月曜日、18時半から釧路都寿司で開催しました。クラブ研修委員会の部

会員をお招きし、山原リーダーの下、私・芦名、池田会員、阿部会員、樋口会員、古谷会員、吉田英一会員、佐藤茂良会員の合計10名で話し合いました。お酒が入る中での会話とあって、一生懸命メモをとったのですが、後で振り返ると読めない字ばかりで、あれ？みたいな話なのです。ただ、話した内容として、幅広い話題でありながらも釧路ロータリーがより良く活性化していくためにはどうしたらいいかを話しました。まとめると大きく3つあると思っています。

1つ目は当グループには、紅一点の池田いずみ会員がいたものですから、「どうして今まで釧路ロータリーには女性の方は入っていなかったのですか」という話から始まりました。「今回の地区大会では、池田会員に見事な司会をやっていただいて、100名を数える当クラブのこれからにおいても、さらに女性会員が増えて活性化するような動きはあってもいいのでは」という話がありました。

2点目、この昼例会の話になりますが、「いま座っている席の場所もどうだろうね」という話がありました。これは「ベテランの先輩会員から若手の会員まで100名を超え、多くなってきている。お互いを知ることではどのような交流を図っていったらいいのか」という話からなった話題です。

例えば、これは全てがその通りという話ではないと思っています。「この昼例会の席をある程度シャッフルして座る機会を設けたら、自然とベテラン会員と若手会員の話ができるのではないか」という意見も出ました。

最後に、「釧路クラブをより良くする、あるいは自分自身を知ることでは、他のクラブへの参加もそれぞれが積極的に行くべきではないか」という話になりました。他のロータリークラブの運営状況を見て、釧路ロータリークラブと比較した時に、良いところはどこか、受け入れてはどうかという点があれば、それも積極的に考えていけばより活性化するのではないかという話題でした。

非常に和気あいあいと楽しく意見交換させていただきまして、私自身、大変勉強になることが多かったです。ありがとうございました。以上です。

Dグループ 尾越 弘典君



皆さん、こんにちは。Dグループは小林さんがサブリーダーだったのですが、今日は都合が悪いということで、不肖私がリーダーでしたので発表させていただきます。

ありがとうございます。

うちのグループは19日に瓢箪にて行いました。クラブ研修委員の邵さんをお招きして、滝越さん、パスト会長の石田さん、同じくパスト会長の吉田さん、舟木会長エレクト、杉村君、佐藤君、松井幹事とそうそうたるメンバーで行いました。

テーマは難しいことだったので、もっと柔らかいことで話したのです。まずは「例会の服装についてはどうだろうか」という話をしました。そうしたら、「現状は特に決まりはないが、基本的にはスーツで参加している。仕事の関係上、作業服やお寺さんもいらっしゃるの、ノーネクタイはどうだろうか」というお話がありました。大先輩からの「服装についてはバッチをつけていればどんな服装でもいいじゃないか。何より出席することが一番だよ」が結論となりました。

続きまして、クラブ内でのメンバーの呼び方について意見が出ました。先ほど、何々会員、何々さん、何々君と、ロータリーではいろいろ使っています。それについて話がありまして、このグループの結論的には「『会員』はまずいいのではないかと。できれば、『さん』か『君』でどうか」という話が出ました。小林君がまとめてくれましたが、「公式の場での敬称は『君』がロータリーの決め事ではないだろうか。スピーチ等で敬称に何々会員とつけるのはおかしいのでは」という意見

がありました。基本的には『君』で、目上の方には『さん』で呼んでもいいのでは、ということですね。『さん』という呼び方をロータリー内で使用して良い、という認識を持っていない人がいると思うので、正式に会員全員の認識を確認した方がいいのでは」という意見もありました。

それから、座席についてです。今日も固まってほしい同じ所に座っていると思います。「いろんな方と話をした方がいいのではということで、シャッフルしたら」という意見も出ました。それから、「二次会等に行った時に、若いメンバーと溝を感じる」という大先輩の方がおられて、そこも「これから二次会に出て若い会員と先輩会員のコミュニケーションが少ない気がするので、もう少し考えていただければ」という意見もありました。

このような情報集会ですが、「年2回じゃなくて3回、4回とやった方が皆さんとのコミュニケーションがより多く取れるのではないかと。回数を多くしてはどうか」という意見も出ました。それから、「国内の他クラブとの交流や友好も考えてみてはどうでしょう」という意見も出ました。

これについては、次年度の会長エレクトにも考えてもらえれば楽しいかなと思います。いろいろな継続事業の見直しとか補助金等も出ましたが、「機会を持って、皆さんに理解できるように説明していただければ」と話しておりました。

お酒を飲んでどんどんヒートアップして、会話にならないくらい楽しい時間を過ごしたので、この辺で終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

Eグループ 片山 昭生君

Eグループのサブリーダーの片山です。Eグループの情報集会の発表をさせていただきます。

11月13日、18時からセンチュリー



キャッスルのユーヨーテラスで行いました。濱谷リーダーの下に浅野さん、高橋さん、それから私、それと協情報委員の参加をいただき、少し寂しいのですが5名で開催させていただきました。私もまだ慣れていない状況と、次の日に会議を控えていることで一生懸命メモをしたのですが、振り返ってみると訳の分からないメモで、絞ってお伝えしたいと思っています。

昨年、回収率が90%以上という高い数値があるアンケート結果を踏まえて、「今後90年あるいは100年に向かうクラブの疑問点を長期プランや活性化を目

指す上でクラブ内にて探っていくことが必要」という話が出ております。

ロータリーに関しては、「基本的な用語を含めて理解ができていない」という意見をいただいております。それから、地区大会の話が出ておりました。無事に終了して、大半が地区大会の思い出の話が続いていました。その中で「会員皆様のスキルの高さ、結束力、協調性を非常に感じられた」というところです。「当日、急遽変更したり、リハーサルを含めて臨機応変に対応ができた」という話が出ておりました。大懇親会の中で、焼き物関係も5分位の間に物がなくなったのですが、準備を含めて順調に終了したと思っております。

私も焼き物に携わらせていただいて、慣れない中でも自分の居場所を一瞬見つけたと思っております。その時にいただいた前掛けが非常に素晴らしくて、家で大事に飾っております。機会があれば、またそれをつけて活躍したいと思っております。

協直前会長がいられていた関係で、ロータリーの会長の挨拶について話が出ておりました。「会長の挨拶は毎回大変だ」という話がありました。会長の挨拶というのは『会長の時間』で、会長が自由に使ってもいい時間だと仰っておりました。「プログラムには『挨拶』となっているけれども、挨拶ではなく会長が考えるロータリーのことについて伝える時間だ」と話されました。

毎回の挨拶の時間のために半分以上はネタ帳を仕込んで準備をしていたという話と、陰で努力をしていたという話をされておりました。自分に役割が当たるといろいろ調べる、あるいは読んで勉強するのでそれが大事だという話もしておりました。

最後に「R L Iを意識することが情報集会では大切だ」と教えていただきました。

ロータリーの目指す方向性でしたが、結構、話もいろんなところに広がった感じで、メモがついて行きませんでした。情報集会は入会して日が浅い私にとっては、少数な中で開催、身近に会員と話せる機会ができる。交流あるいは人を知ることができて、ロータリーの知る良い機会だと考えております。これを最後に付け加えて終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

Fグループ 青木 泰憲君



皆さん、こんにちは。Fグループのサブリーダーを担当した青木です。11月12日火曜日、朴然さんにて情報委員長の木下さん、Gグ

ループから黒田さんに参加をいただき、中島リーダーの下、10名が集まり話し合いました。10名ということでテーブルが2つになり、つながってはいたのですが8月入会の謙虚な私としては一番手前の席に座ったので、残念ながら1テーブル目の木下委員長、泉大先輩の話がほとんど聞き取れなかったもので、私がいた第2テーブルの話をさせていただきます。

8月入会で、ロータリーのことをほとんど知らない中、「最近は出られないのだけれど、夜例会だけは何とか出たい」というアシストの浅野さんがいて、いろいろロータリーの歴史と、それから青年会議所、ライオンズ、守成クラブ等の他のクラブとの違いを教えてくださいました。

今も話がありましたが、地区大会で焼き物を担当した者が3名いました。たしか5時間くらいかけてホッケとかホタテ等を焼いたのですが、スタートして10分ほどで完売しました。うちでは大変かなと思って、嫁に頭を下げて来てもらったのですが、10分もしないうちにはけたもので、「帰るね」と言われて嫁の背中を見送る雨の中の思い出です。本当に楽しい時間、濃い時間をあっという間に過ごさせてくださいました。

そして、会場が朴然さんということもありまして、最後は食料品問題について話が進み、世界規模の話になって、さすがロータリーだなと実感を持たせていただきました。

この時、残念ながら会社から真っ直ぐ行きましたのでお酒飲めない車でいったものですから、次はぜひ車を置いてお酒を飲みながら皆さまと親睦を図り、話したいと思います。以上で報告を終わらせていただきます。

Gグループ 得地 哉君



皆さん、こんにちは。Gグループのサブリーダーの得地です。よろしくお願います。

Gグループは伊藤さんがリーダーで、クラブ研修委員は脇さん、その他に前田さん、土橋さん、川合さん、杉山さん、及川さんの合計8名で11月18日に華蔵さんで開催させていただきました。

今回、「釧路ロータリークラブの目指す方向は」というテーマをいただいたのですが、内容を振り返ると大きく分けて会員拡大と国際事業、そして青少年育成を含む地域貢献の3つの大きなテーマに分けられると私は思ったので、それぞれに関して雑駁なのですが発表させていただきます。

会員拡大について。まずは昨年アンケートにおいて「入ってみて、9割が楽しい」の話があったと思うのですが、「楽しい」、「居心地が良い」状況だけでも、会員増強に関しては3割の人間が「ちょっとどうか」と考えるのはなぜだろうか、という問題提供をいただきました。

その理由としていくつも挙げたのですが、「会費の高さだろうか」、「いや、例会の食代と勘案すると決して高くはない」、「寄付もあるので、負担が大きく見えるけど、そうではない」と。「じゃあ、敷居が高いのだろうか」には、「逆に釧路クラブの敷居は低い」という話がありました。

それじゃあ、なぜなのか。まずは「クラブ内に会員増強しようという雰囲気を感じられない」という話がありました。「100人をキープすることで満足しているのでは」という話です。とはいえ、「増えたら増えただで難しいところもあるので、誰でも彼でも単純に増やせばいいわけではないのが難しいところ」という話もありました。そういった中で「釧路クラブは横のつながりが深いので、会員が連携して上手にアピールして継続的な会員拡大を行っていることが肝要ではないか」という話になりました。

続きまして、国際事業。「RIからくるものが多くて、何か一本通ったものがないのが現状ではないか」「グローバルや地区の補助金を利用して、何か買ってあげるみたいなクラブもあるけれども、それは果たしてロータリーの事業として良いことなのか、適切なのか」という話がありました。

釧路クラブを考えた場合、例えば、タイに贈った浄水器は現在故障している状態です。やりっぱなしという状態、それがいいのかどうか。その時の事業だけでは自己満足に終わってしまうのではないかという話です。国際事業は特にやった後の検証が必要であり、今回のケースも撤去するのか修理するのか、いずれか結論を出す必要があるのではないかと。先方も寄付されたものなので、勝手に処分できず、どうしたらいいのか扱いに迷って困っているのではないかと。話もありました。

事業は手を出した以上、最後まで責任をもってやる必要があって、事業継続性が難しいのですが、特に国際事業に関しては最後までできないものはやるべきではないのかもしれない。その国の習慣との違いも勘案して十分に検討して行う必要があるという話です。その他に姉妹ロータリークラブについて、「これらを継続していくのが果たしていいのかどうか。継続したことによって負担になっていないのかも検討していく必要があるのでは」という話がありました。

青少年育成を含む地域貢献について。「対外事業が削られてきていて市民へのアピールの場が少なくなっている。やっていることがすべて地味なのが現状であ

る。何十年も継続している事業の見直しも必要ですが、実際には現在行っている継続事業を撤退しても、他に何かやっているかということ、決してそうではない」という話がありました。では、そのような状況はどうしたらいいのか。特に「若い世代への向けての支援を重視してはどうか」という話がメインになりました。「釧路はスポーツが盛んな土地なので、次代を担う青少年をメインターゲットとしてスポーツ支援をしていったらどうか」という提案がありました。今後はいま以上に地域に対して目に見える奉仕、地域貢献として地元に対してできることを考えていかなければいけないというお話です。

その他についてですが、「これまでになかったことがここ5～6年でいろいろ出てきているのですが、積極的にそこに進んでいるわけではなくて、どこを目指しているか分からない状況である。今後、重視しなければいけないのは国際なのか市民向けなのか、青少年なのか、何か一本に絞らないと財政的に厳しい」と。もう1点、「現状では新しいものが難しいのか、関係者への聴取も含めて数年かけて検証と検討をすべきである。いずれにせよ慈善ではなくて社会貢献として、クラブとして行う事業に対しては責任を持つことが大切であって、何よりも一番大事なのは、このような話をどんどん出して、みんなで検討していくことが一番大事ではないか」というお話になりました。以上、発表を終わります。ありがとうございます。

Hグループ 武久 晋治君

皆さん、こんにちは。Hグループ、サブリーダーの武久です。2分30秒という話がありましたので、少し早口でまいります。



Hグループは11月14日に集会を実施しました。木下研修委員長を含めた12名で話し合いました。Hグループには吉田ガバナー、小船井パストガバナー、天方会長など経験が豊富でロータリークラブ活動に造詣が深い方々が参加されていたものですから、「釧路ロータリークラブの目指す方向は」についてこうした方々にご意見を伺う形式で議論を進めました。

形としては講師と弟子の間答みみたいな感じで、内容も論語のようになりにかなり精神性の高いものになったことをお断りしておきます。一部、講義者の方の過激な発言は割愛しております。

まず、吉田ガバナー、小船井パストガバナーからは、釧路ロータリークラブが主導して新しいクラブを発足させる必要性について話がありました。私たちの国際

ロータリーの第2500地区では、20年以上新しいクラブが発足していないとのことで、「ロータリー活動を広げていくためにも新しいクラブの発足を目指す方向とするべきだ」という意見です。吉田ガバナーはガバナー就任時、衛星クラブの可能性について検討したとのことです。衛星クラブとは、ロータリークラブ構成要件の20名以上を満たさない小さなグループで、後継者となる可能性を秘めたクラブのことです。吉田ガバナーは、こうした衛星クラブについて定例集会を月2回にしたり、インターネットを活用して集会を行ったりするなど活動を簡素化することでロータリー活動の裾を広げたいと考えておりましたが、実現には至っていないということでした。「現在は、まず釧路ロータリークラブの会員数を拡大し、そのプロセスで新しいクラブ発足を検討する方が望ましい」としておられました。吉田ガバナーの会員数の拡大目標は130ないし150名程度ということでした。

小船井パストガバナーからは「釧路ロータリークラブが他のクラブと連携し新しいクラブ発足に取り組むのもひとつの手だ」と話されました。実際、20年以上前に発足したクラブも既存の2クラブが連携して誕生したとのことです。いずれにしてもロータリー活動を進行していくために共通しているのは「釧路ロータリークラブの会員数拡大である」でした。

天方会長からは「今年度のようにガバナーをクラブから出し、地区大会を成功させた後は、一種の無気力状態に陥るクラブが少なくない。幸い、釧路ロータリークラブは来年度もガバナー補佐を出すことになっており、大きな危惧は持っていない」ということです。「いずれ、85周年、90周年の節目がやってくるので取り組みを粛々と継続していくことが大切だ」と話していました。

会合では私のようなロータリー活動ビギナーから、職業を通じた社会貢献の具体像について質問が出ました。小船井パストガバナーからは「大切なのは、ロータリーは学びの場です。私たちは専門的職業人でロータリーをとおして学び、人間として成長していく。そのことが、その人たちの会社・地域に良いことを行う、これが貢献という考え方ではないでしょうか」という話でした。これは大変分かりやすく勉強になりました。吉田ガバナーは、「いま官庁・企業などで深刻な不祥事が相次いでいるが、そういった問題を起こす人たちにこそロータリーに入って学んでもらいたい」と話があり、「なるほど」とひざを打ちました。吉田ガバナーは地区活動方針として「知らずして語れず！」をお示しになっています。私たちのクラブがロータリー活動を進行し、裾野を広げていくためには、「ロータリー活動とは何ぞや」という理解を今回の情報集会のような取り組みを進めていく中で、今以上に深めていく必要があると改めて実感しました。